

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 29 年度 第 2 号 2017 年 11 月 30 日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構

函館水産試験場 調査研究部

TEL : 0138-83-2893 FAX : 0138-83-2849

平成 29 年度道南太平洋スケトウダラ産卵来遊群分布調査（2 次調査）結果

函館水試調査船「金星丸」および釧路水試「北辰丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：2017 年 11 月 14～22 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～600mの海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、ほぼ前年同期と同程度。
- ・ 魚群反応の強い海域は登別～白老沖。
- ・ 反応の比較的強い水深は 300m以深。海底に張り付いた反応は、水深 350～450m にかけて。
- ・ 水深 100m以深の水温は、渡島沖で平年並み、胆振沖で平年よりもやや低い（1～2℃）。

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて観察されましたが、その中でも胆振沖の 182、184 海区（登別～白老沖；H～I ラインにかけて）に強い反応がありました（図 1・2）。
2. 海域（渡島～胆振海域）平均の反応量は、昨年度とほぼ同程度となっていました（図 3）。なお、登別～白老沖にかけては、昨年度を上回る濃密な反応がみられたものの、渡島沖の反応は昨年度をやや下回っていました。
3. 魚群反応は、主に水深 300m以深に観察されました。海底に張り付いた反応は、渡島・胆振海域ともに水深 350～450mにかけてとなっていました（図 2・4）。
4. 今年度の漁獲物調査は、海底に張り付いた魚群ではなく、海底から浮いている魚群を対象としてトロールによる調査を行いました。その結果、登別沖の水深 430m付近で浮いている魚群（曳網層：水深 300m前後）は、体長（尾叉長）36～53cm（主体は 45cm 前後）のスケトウダラ成魚となっていました（図 5）。
5. 調査海域の水温は、水深 100m付近までは平年（2002～2016 年度のこの調査における平均値）よりもやや高くなっていましたが、それ以深では、渡島沖（南茅部沖）でほぼ平年並み、胆振沖（登別沖）で平年よりもやや低く（水深 150～300mにかけて 1～2℃程度低い）なっていました（図 6）。

なお、次回の調査は年明け後の 1 月中旬（2018 年 1 月 15～23 日）を予定しています。調査後にまたスケトウダラニュースを発行して、分布状況等をお知らせします。

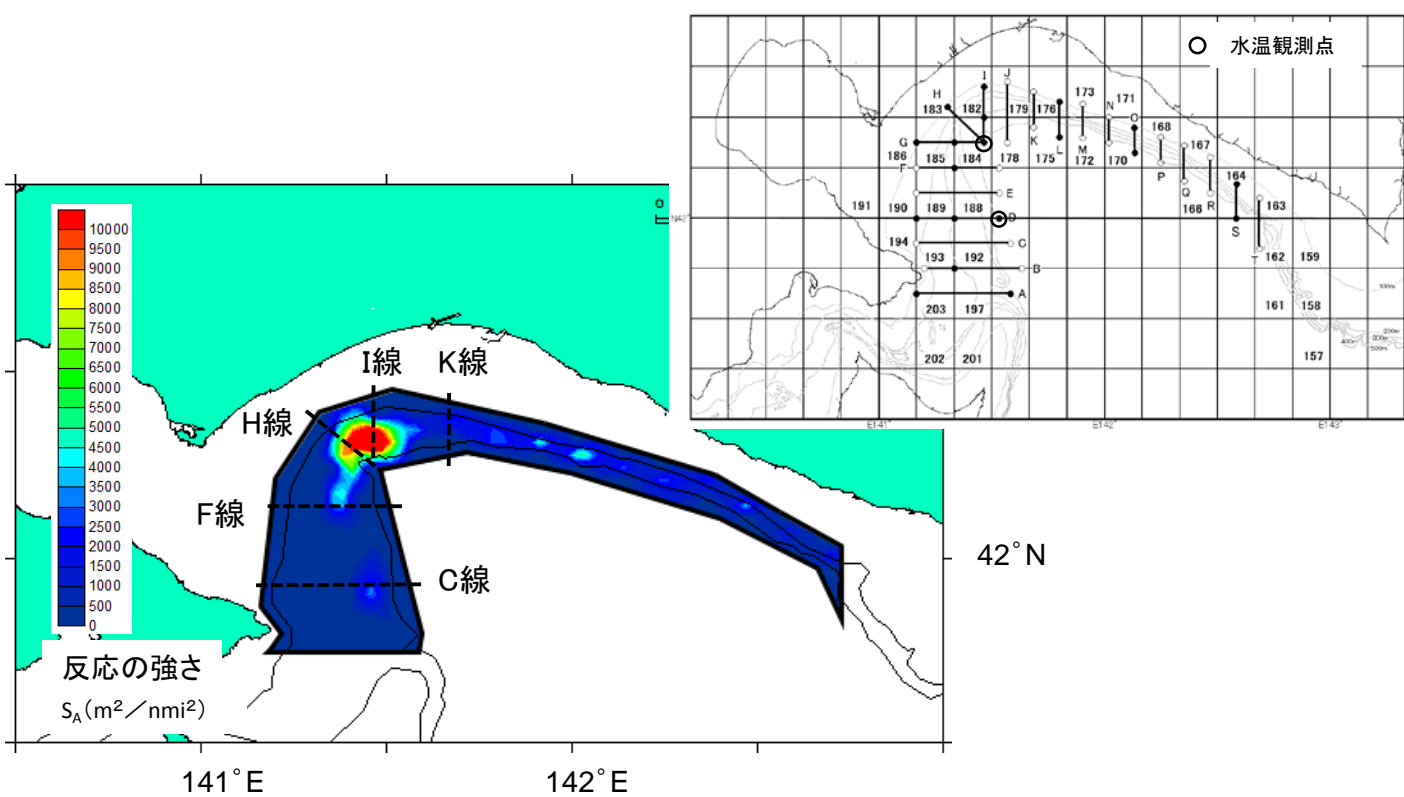


図1 調査海域における魚群の分布(右上図は調査海域図)

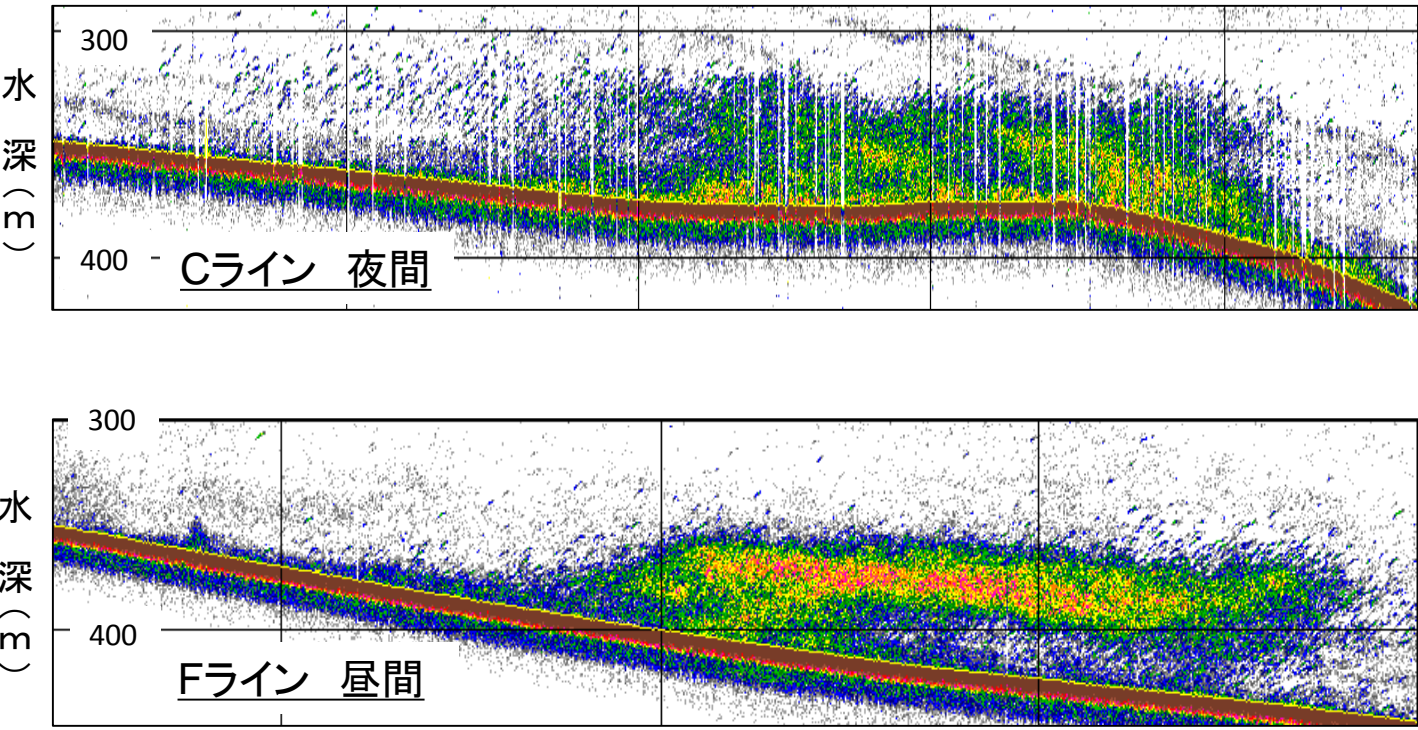


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

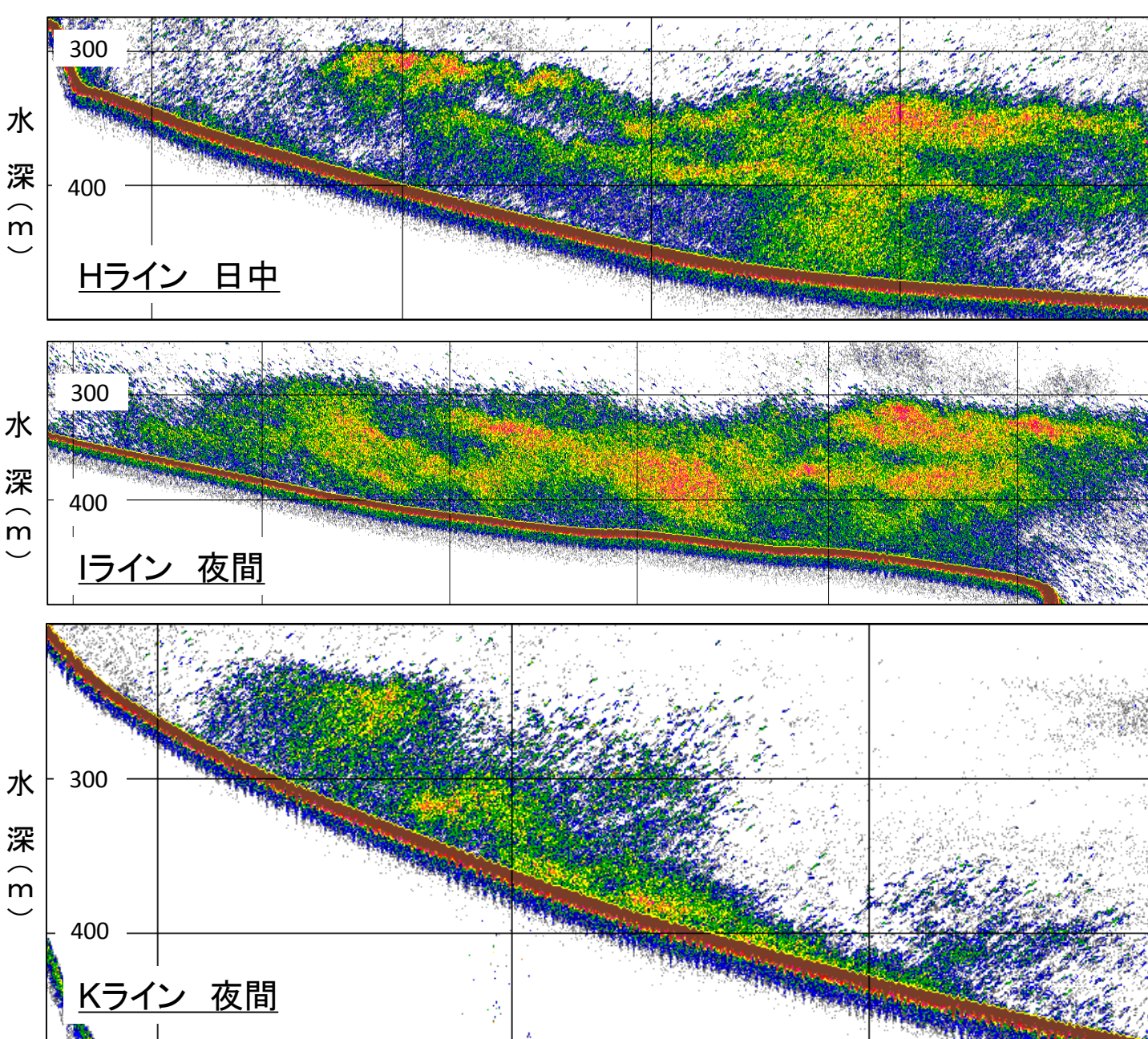


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき
 グラフの水平ラインの間隔は1マイル, 鉛直ラインの間隔は100m

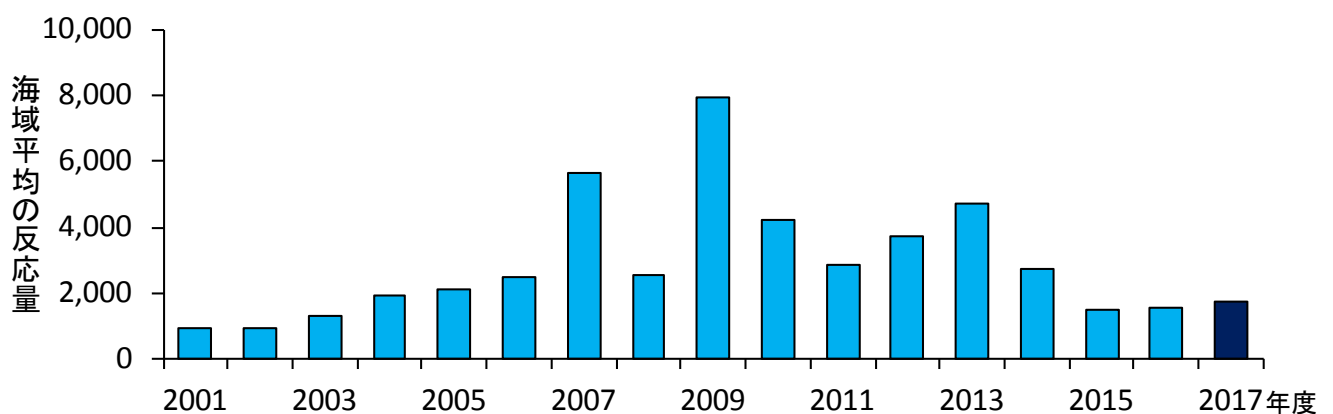


図3 調査海域におけるスケトウダラ魚探反応量の推移

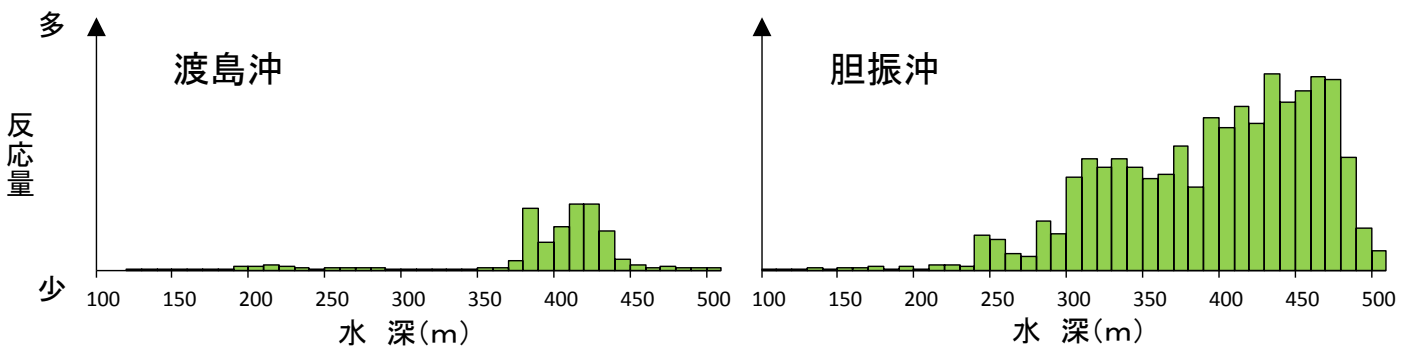


図4 水深別の平均魚探反応量 左:渡島沖(A~Fライン), 右:胆振・日高沖(G~Tライン)

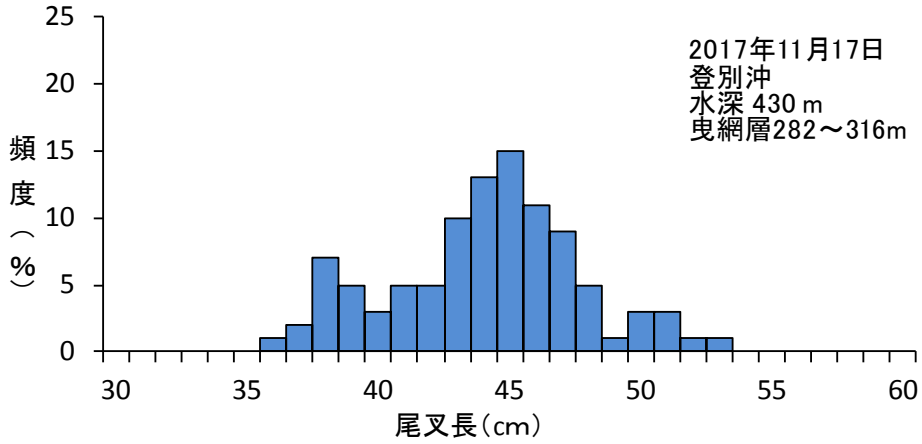


図5 中層トロールによる漁獲物の体長組成

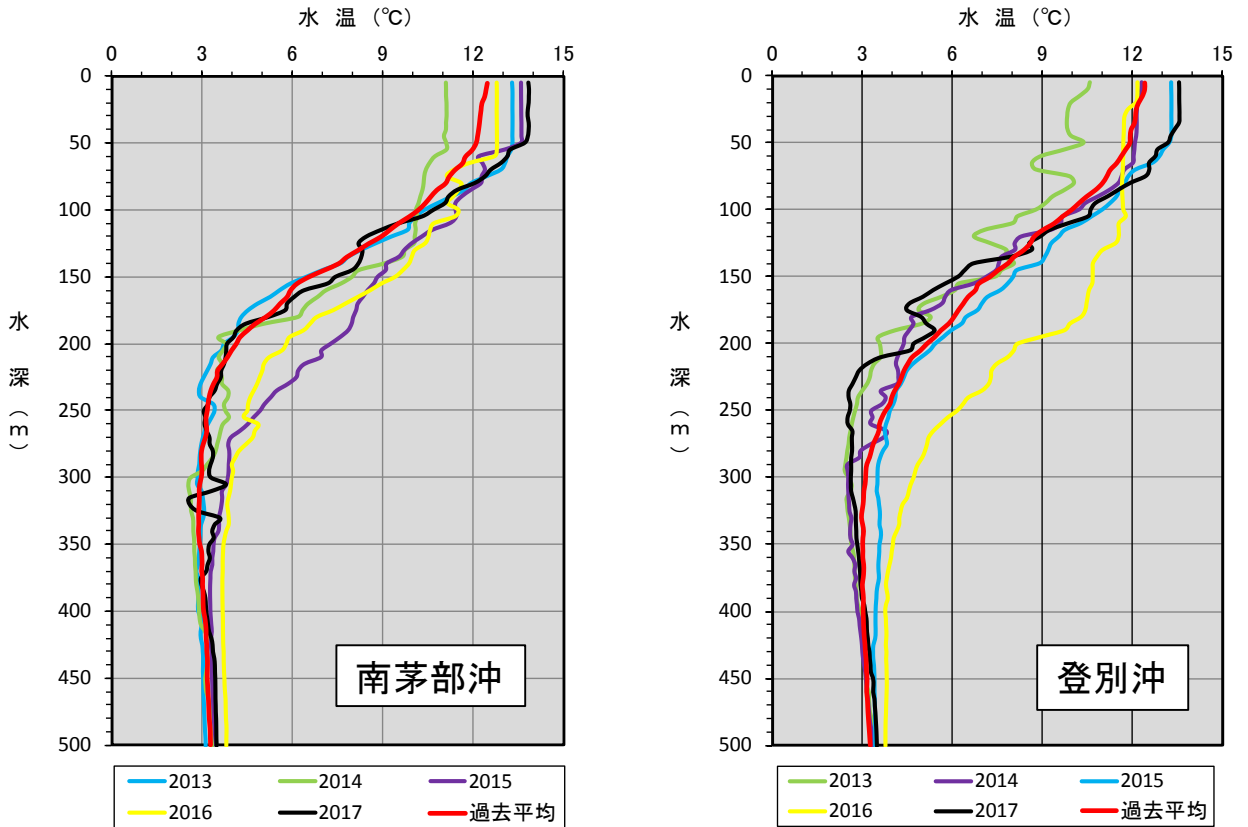


図6 11月中旬における水温の鉛直分布 左:南茅部沖(N42° ライン上), 右:登別沖(Hライン上)
(過去平均:本調査における2002~2016年度のそれぞれの調査点の平均値)